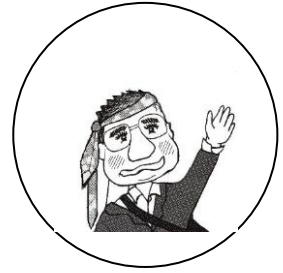


# 大魔王のお笑い神話



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン

ぼん子画

(530-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3 マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail : daimao@travelmitra.jp)

## 「インド・大菩提寺物語」③

ブッダはこの自己観察力を全力で発動し、悟りに至った。それがどのようなものか、わが輩は知る由もないが、さすがブッダは偉大だと思ふのは、それを再検証していることである。

「ワシは悟った！」と言う人がいたら、その御仁はそれ以降何もしないだろう。最高の知恵と体験を得たのだから、それ以上のことをすることもなく、それ以下のことをすることもない。ましてや自らの体験を疑うなんてこともしないだろう。これが、凡人による凡人の神秘体験「サトリ」の落とし穴である。

それでは、次の大菩提寺境内の七つの聖処を巡り、再検証の足跡を辿ってみよう。(9月号参照)

### (1) 聖菩提樹下 (アシュヴァッタ樹) : 人生の苦からの開放7日間

樹下に金剛宝座 (ヴァジャラ・アーサナ) が安置されている。伝統的に行者は石座の上にクシャという草を敷き鹿の皮、綿の布などを重ねて敷き、そこに座り瞑想したと云われる。ブッダの場合は、そのようなものが準備されていることもなく、ただ菩提樹の下で座っていたと想像される。

さあ、「苦」とともにある読者諸氏よ。完全な開放は望めないが、七秒間の開放なら可能かもしれない。金剛宝座にブッダが御座しますと想って、しばし対面してみよう。

クイズ問題1 : この金剛宝座に座って、引きずり下ろされた日本人がいるが誰でしょうか?

### (2) アニメーシャ・ローチャナ : 悟りをえた場所を凝視して7日間

アニメーシャは、瞬きすることがない、ローチャナは目を意味する。ヨーガ行法ではトラータカ (通称ロウソク瞑想) といわれる。堂内には観自在菩薩が祀ってある。

ブッダも不思議な悟り体験を、それこそ瞬きすることもなく、じい〜と眺めて検証したに違いない。読者諸氏も、堂の周囲に座り、菩提樹の方向をじい〜と見つめてみよう。

1976年ころ、州都パートナーにクリッシュナムルティという人がいた。何時間も太陽を凝視する行で有名であった。よく失明しないものだと感心したことがあった。

### (3) チャンカマナ : 歩行瞑想で7日間

チャンカマナは経行処、歩廊を意味する。テーラヴァーダ仏教の歩く瞑想法である。蓮の華を彫った19の石が、台座の上に一列に並べられている。ブッダが(1)と(2)の間で「歩く瞑想」をしていると、蓮の華が地中より湧き出たという。台座には新しい足跡が彫られているが、床に並べられている11個は紀元前1世紀頃のものと云われている。

クリシュナ神が歩いた足跡は、蓮の華の形をしていたといわれている。たとえ足跡でも聖者のそれは美しいものとされる。早朝なら参詣者も少ないので、まるで蓮の華の上を歩くように、ゆっくり、やわらかく歩いてみよう。

クイズ問題2：身体でもっとも汚れる足、足裏が、なぜ仏足石として崇められるのか？

(4) ラトナグラハ：宝の家で坐ること7日間

梵天、帝釈天が「宝石の家」を設けたので、そこで悟りを検証した。そのときブッダの身体から五色（青、黄、赤、白、オレンジ）の光が発せられた。仏旗はこの説話から採用された。

人間から五色の光が発せられたと云われる不思議現象である。人間が輝くことがあるか、と問われたら、わが輩は「有り」と答える。それには発する者も発せられる者も開放されていなければならない。

クイズ問題3：この仏旗を制定したのは、どこの国の人でしょうか。

1. インド人 2. スリランカ人 3. アメリカ人 4. チベット人 5. 日本人

(5) アジャパーラ（羊牧）榕樹：榕樹下で坐ること7日間

この場所で、バラモンがブッダに「何によってバラモンなのか？」と問うた。ブッダは「生れではなく、修行したものが真のバラモンである」と答えた。ここでカーストを否定したという説がある。今日のような複雑で固定化したカースト制度は、七世紀あるいは十世紀以降だとされている。ここではシンプルに生まれによって人間的価値は決まらなると解釈できる。したがって、上位のカーストに生まれたから偉いのではない。裕福な家に生まれた者も、貧しい者も、努力して人間形成につとめた者が偉いのである。

この榕樹は、大菩提塔正門にある。この榕樹の下をくぐり礼拝する者はすべて平等である。

(6) ムチャリンダ蓮池：ムチャリンダ樹下で坐ること7日間。

大雨と寒さ、あぶ・蚊などからブッダを守るために、ムチャリンダ龍王が龍宮から出てきてブッダを七重に巻いて守護したと云われている。

どういうわけか、龍宮というと海を想像してしまう。おそらく浦島太郎伝説のせいだと思う。ムチャリンダは七つの頭をもったコブラのことである。蛇なので海に住んでいるわけではなく、地中に住んでいた。仏教説話では、ブッダを守護する善きナーガ族の龍として描かれている。クリシュナ神話にあらわれる毒蛇カーリヤ龍王などは、マトゥラー近くのラヤムナー河の水中に棲んでいた。

蓮池では、捕獲した小魚を放つ「放生会」を行っている。観光用だが、よければやってみよう。

(7) ラージャーヤタナ（王処）樹：ヤタナ樹下で坐ること7日間。

ラージャーは王、アヤタナは場所を意味する。

タツプサとバッカリという商人が通りかかった。麦菓子と蜜団子をブッダに供養した。二人の商人はブッダに礼拝して在俗信者（ウパーサカ）になった。最初の信者である。これで三宝（仏・法・僧）のうち仏（ブッダ）が出現したことになる。ここからブッダは、悠然と修業仲間のいる初転法輪の聖地サールナートに向かった。そこで初めて法を説き、ブッダの教えに従う僧が出現して、三宝（仏・法・僧）が成立した。

ここから北西（サールナート）を眺めて、「さあ、生きるぞ！」と叫んで、ブッダの息を吸い込もう！

クイズの回答は来月号で致します。乞うご期待。